



2015年(平成27年)4月 84号

CONTENTS

■ トピックス

- ・ 中医協、体制加算厳格化で算定なしの薬局は 18 ポイント増1
- ・ 一般名処方 7.5 ポイント増、「薬局に在庫なし」で変更せず 13%1
- ・ 安部委員「後発品の変更に薬剤師が貢献」2

■ リレー随想(活字から描く虚像 視覚で知る実像: 菊繁一郎)3

■ 50周年特別企画~各委員会活動の紹介(委員長リレー寄稿)~

- ・ 総務委員会5

■ 委員会活動報告

- ・ 経営者向けコンプライアンス講習会 報告(3/18)7
- ・ PMDA との薬制委員会・製剤研究会 合同講習会 報告(3/31)8

■ お知らせ

- ・ GE 薬協 50周年ロゴの使用について9
- ・ 3月のイベント参加報告
 - ・ 第15回 JAPAN ドラッグストアショーに出展(3/13~15)10
 - ・ 日本薬学会第135年会(3/26~28)11
- ・ 4月のイベント参加予定
 - ・ 日本医学会総会学術展示及び学術講演(4/10~13)12
 - ・ 正会員の入会について13

■ 今更聞けない GE 豆知識「準先発とは」14

■ 公正競争規約 Q&A「卸売業者経由の製剤見本配布方法について」16

■ 活動案内17

■ 編集後記18

トピックス



中医協、体制加算 厳格化で算定なしの薬局は 18 ポイント増

厚生労働省は3月18日の中医協総会に「後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査結果概要」の速報を報告した。14年度に後発品調剤体制加算を算定していない薬局は41.2%で、13年度(23.3%)から大幅に増えた。14年度調剤報酬改定で体制加算の要件が厳しくなったことで算定できない薬局が多く出たことがわかる。

保険薬局を対象とした調査の速報によると、現加算1(新指標で55%以上、18点)を算定している薬局は28.4%、現加算2(新指標で65%以上、22点)を算定しているのは29.9%だった。算定していないのは41.2%だった。

13年度に旧加算で算定していた薬局が14年度に現在の加算でどう算定しているかを見比べると、13年度に最もハードルが低い旧加算1(旧指標で22%以上、5点)を算定していた薬局のうち66.2%が新加算が厳しくなったことで算定できなかった。現加算1は30.9%、現加算2は2.9%だった。

旧加算2(旧指標で30%以上、15点)だった薬局では、57.9%が現加算1、16.5%が現加算2、算定せずが25.6%だった。

旧加算3(旧指標の数量シェア35%以上、19点)だった薬局の71.0%は現加算2、26.1%は現加算1を算定、算定せずは2.9%だった。



一般名処方 7.5 ポイント増、 「薬局に在庫なし」で変更せず 13%

昨年11月6～12日の1週間に取り扱った処方箋に記載された医薬品のうち、一般名で処方された医薬品の割合は18.1%で、13年度の前回調査に比べて7.5ポイント増加。先発医薬品名で処方されたのは57.3%で、前回の64.7%から減少した。

一般名で処方された医薬品のうち、薬局で後発品を選択したのは70.8%で、前回から11.2ポイント増えた。一般名処方の処方箋を持参した患者に後発品を調剤しなかった理由で最も多かったのは「患者が希望しなかった」(63.2%)で、次いで「後発品の備蓄がなかった」(13.6%)となった。

一方、先発品名で処方された医薬品に占める「変更不可」の割合は前回に比べて7.6ポイント減り、26.9%となった。先発品名で処方され変更不可となっていない医薬品のうち、後発品に変更したのは18.1%(前回調査比3.8ポイント増)。変更しなかった理由では、「後発品が収載されていない」が43.2%、「患者が希望しなかった」が33.7%、「外用剤で同一剤形の後発品がなかった」が2.7%だった。

後発品調剤に対する考え方では、「全体的に積極的に後発品の説明をして調剤するよう取り組んでいる」が61.4%で、前回に比べて10.8ポイント増加した。後発品の使用を進める上で医師に望むことでは、「後発医薬品の銘柄指定をしないこと」が最も多く、次いで「患者が後発品を希望している場合、処方箋に変更不可の署名を行わないこと」「一般名処方とすること」と続いた。



安部委員「後発品の変更に薬剤師が貢献」

安部好弘委員(日本薬剤師会常務理事)は総会で、「ロードマップやこれまでの診療報酬・調剤報酬改定におけるさまざまな施策が徐々に効果を示している」と指摘。患者を対象に行った調査で、後発品に変更したきっかけとして67.2%が「薬剤師からの説明」と答えたことに触れ、「後発品の使用促進に薬剤師の説明や情報提供が一定の貢献をしていることが示されている。薬局・薬剤師はさらに努力を重ねてより貢献する必要性を感じている」と話した。



活字から描く虚像 視覚で知る実像

大正薬品工業株式会社

代表取締役社長 菊繁一郎

「イスラエル」という国に皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか?多くの方が、戦争好きの国とか治安が悪い国といったイメージを持たれているかと思います。私も初めてイスラエルへ出張した際はとても不安でした。しかし、実際に行ってみると、まるで南カリフォルニアにいるのかと錯覚してしまうほど、真っ青な空が天に拡がり、ビーチにパームツリーが立ち並ぶ地中海の素晴らしい景色が眼前にありました。あたりを見回しても戦争を連想させるものは何もなく、夜遅くまで街で楽しむ人々の姿は日本と変わらない治安の良さを示しています(実際の犯罪発生件数も、そのことを裏付けています)。

「百聞は一見にしかず」という諺がありますが、時折、私たちはマスコミが発信する報道から勝手なイメージを創り上げてしまいます。イスラエルに関する報道は、単に隣国との紛争という話題に焦点が集まるため、読者の頭の中には、実際とは異なる虚像ができあがります。仕事においても同じで、グローバルのプロジェクトメンバーと顔も知らぬままメールや電話でのみ会話する機会が多くありますが、実際に会ってみると想像していた人物とはまったくの別人が目の前にいたりします。このような学びから、活字や音声を元に創り上げられた様々な虚像をひとつの正しい実像に導いていく努力をなくてはならないと常に思っています。特に、現代のネット社会の中では、図らずとも実像とは正反対のものに誘導されることが少なくありません。先日、某一般紙に、「風邪薬ならともかく、がん治療には先発品を使って欲しい」という記事が掲載されていました。患者さんのそのような心情は理解できますが、その根底には、ジェネリック医薬品 = 安い = 粗悪というイメージが存在します。医療経済的な立場では、高価な抗がん剤だからこそジェネリックを使って欲しいという論理が成り立つことは JGA 関係者であれば共通の理解です。現に、がん治療を受けている患者さんのご家族という方から弊社にお電話があり、ある抗がん

剤のジェネリックが米国で承認されているのになぜ日本ではまだなのかのご質問を受けました。経済的に困窮しているご家族からの悲鳴と捉えました。物事をひとつの方向だけでなく、様々な異なる角度からの視点を業界として提示していかななくてはならないと思います。

先発メーカーのみで作る日本製薬工業協会(製薬協)では、10年前、「社会から顔の見える産業になる」「リスク&ベネフィットの考えを社会に浸透させる」というイメージアップキャンペーンを立ち上げました。その結果、とかく副作用報道に偏りがちだった記者達が、

- 副作用の無い薬は無く常にリスクに対してベネフィットがどれだけ上回るかを判断することが重要であること。
- 偏った副作用報道は、その薬を服用している患者さんをいたずらに不安がらせ服用を中断させてしまい、最悪のケースでは病勢を進行させてしまうこと。

を理解したことで、今日では、とてもバランスの良い記事が増えました。新たな角度での視点を提供し、報道機関の理解を拓けることができたことが、この変革に結び付いています。

少子高齢化が、診療報酬改定が、そして更なる変流が様々な所で私たちのビジネスに影響を与え始めています。これらの変流に逆らわず、この変革の時代をどう乗り切れば良いのか斬新なアイデアが求められています。太古の昔に巨大隕石が地球に衝突し、その劇的な環境変化に適応できなかった恐竜は絶滅してしまいましたが、奇跡的に生き延びた生物もいて、それが現代の文明社会に向かって進化を遂げました。変革の時代で勝ち残っていくには、様々な業界、カルチャー、サイエンス、テクノロジーが混ざり合い、コンフリクトを起こし、淘汰を繰り返し、その中から生まれた新しい発想を活用することが重要だと考えています。果たしてどのような新しいビジネスワールドが生まれるのか、とても楽しみな時代でもありますし、私たちが積極的に関わっていきたく思います。

50th

周年特別企画

～各委員会活動の紹介(委員長リレー寄稿)～

総務委員会

総務委員長を務めさせて頂いております、東和薬品の田中でございます。この度、GE薬協創設50周年に伴い、各委員会の案内をさせて頂く事になりました。第1回の企画として「総務委員会」を御案内させて頂きたいと思っております。

総務委員会は「総務部会、広報部会」で構成されております。

1. 総務部会のメンバーは、理事会(理事13社、監事2社)と同じ会社から15名のメンバーにて構成されます。毎月、理事会開催日の約1週間前に開催され、主に理事会で議論される項目について、事前の議論を行っております。例えば定期的な対応事項として、経営実態調査の分析、ジェネリック医薬品のシェア分析等を行っております。勿論、それ以外に、GEの使用促進に繋がる各種企画等の検討を行っております。特に当協会の運営上に関する諸問題、及び将来の課題になりそうな議題も、積極的に他の委員会と共同して、行政及び関係団体にも働きかけて対応しております。そして、他の委員会と共同し活動する事で、他の委員会で議論されている協会運営において重要な事項も理事会に提案を行い、GE薬協の最高決定機関である理事会をサポートする存在として活動しております。
2. 広報部会は、5つのグループに分かれて活動しており、総勢22名で構成されています。(但し、総務部会メンバー5名が重複しているので純粋には17名のメンバーとなります)



- ・ JGA ニュースグループ

毎月1回の打合せを行い、毎月発行している JGA ニュースの各種企画を行っております。

- ・ ホームページグループ

協会のホームページのリニューアルを行っております。昨年は英語版の作成を、国際委員会と連携しながら、その都度対応しております。今年はさらにリニューアルを企画しております。

- ・ イベント、講演グループ

毎月1回程度の打合せを行い、各種学会や一般向けの広報活動(年間20回程度)の企画を行うと同時に、春と秋の土日を中心に、GE薬協が出展する各種学会のブース展示に参加し GE の啓発活動に従事しております。

(例)

医師、薬剤師を対象に学会等での GE 使用促進セミナーの開催

一般の方を対象にしたGE啓発セミナーの開催

各都道府県のGE使用促進に対する協力(情報提供、講師派遣、セミナー共催等)

医学薬学教育での後発医薬品に対する理解の向上に対する協力

- ・ 広告掲載グループ

毎月1回の打合せを行い、各マスメディアを通じて広告掲載を行う企画を行い、GE の更なる啓発活動の支援を行っております。

- ・ 原稿作成グループ

毎月1回の打合せを行い、多方面にわたる啓発ツールの作成の企画を行っております。特に今年度は医学、薬学生向けの資材の作成を企画しております。

平成26年度より、総務部会と広報部会は、年に一度全体会議を行うことで、会員会社間の情報共有を図っております。特に広報部会は、上記5つのグループにご協力頂ける皆様に常時募集しております。是非、多くの会員会社の柔軟で発想力豊かな中堅若手社員の皆様の御協力をお待ちしております。

そして、今年度はGE薬協創立50周年の記念行事を控え、その事務局として中心的な役割を担っていく予定になっております。

是非、今後の総務委員会の活動にご期待頂きたくお願い申し上げます。

文責： 総務委員長 / 田中俊幸(東和薬品)



経営者向けコンプライアンス講習会 報告 (3/18)

臨時総会と同日に、内部統制や企業コンプライアンスに精通する弁護士・公認不正検査士の木曾 裕先生（弁護士法人北浜法律事務所東京事務所）を講師としてお招きし、会員各社の代表（代理を含む）を対象に、『コンプライアンスの現代的位置づけと、経営者の役割』と題した講演会を開催しました。コンプライアンス経営とは「正しく儲けること」と定義したうえで、会社における「正しさ」は各社の経営者の資質によって異なること、その「正しさ」がたとえ社会的要請とずれていても、それが経営者の意向であり社員は従ってしまうものである（社員とは上司の顔色をうかがうものである）ことが事例で示され、経営者の姿勢の重要性をあらためて認識させる内容でした。そのほか、コンプライアンスを単にコスト要素としたり、個別のトラブルシューティングの対象と捉えたりする経営姿勢が、経営基盤を揺るがすような事態を招いた事例を通し、今や、コンプライアンス=社会的評価を物差しとした取り組み、と考えるべき時代であることが示され、経営者の皆様にとっても示唆に富む講演となりました。今後も、各社におかれまして、引き続き経営者が先頭にたちコンプライアンス経営の更なる推進・浸透に取り組んでいただくことを期待します。



PMDA との薬制委員会・製剤研究会 合同講習会報告 (3/31)

日 時：2015年3月31日(火) 15時30分～

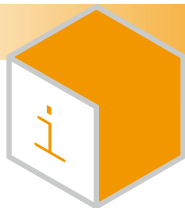
場 所：ベルサール八重洲 ルーム1 (東京都中央区)

講 師：美上憲一先生(独立行政法人医薬品医療機器総合機構ジェネリック医薬品等審査部長)

薬制委員会及び製剤研究会がそれぞれ同日開催となり、その第二部として、両会合同でジェネリック医薬品等審査部の美上部長による講演会が開催された。ジェネリック医薬品等審査部は、昨年11月1日にジェネリック医薬品普及促進策により増加した申請件数、多様化、複雑化する製剤開発に対応するために、一般薬等審査部から分離し新設された部門であり、協会として設立当初より講演をお願いしてきたところであり、今回実現した。

美上部長のご講演は、「ジェネリック医薬品等審査・相談の現状と今後」と題し、ジェネリック医薬品等審査部の主な業務・体制、PMDAの他部門との連携、ジェネリック医薬品に係る審査・相談の現状、今後計画されているCTD申請トライアル、GE審査報告書の作成計画、リスク管理計画の適用、事前相談制度の充実等、多岐にわたる内容であった。いずれも会員各社の関心が極めて高い事項であり、講演後の質疑応答も活発に行われた。参加者は約100名であった。

また、講演終了後にはジェネリック医薬品等審査部との意見交換会が開催され、こちらには会員会社から約70名、ジェネリック医薬品等審査部からは美上部長を含め6名の審査担当の方の参加があった。審査担当の方と直接話ができる貴重な機会であり、2時間の予定時間を超えるほど熱心な意見交換があちらこちらで行われ、非常に有意義な意見交換会となった。



お知らせ

GE 薬協 50 周年ロゴの使用について

当協会は平成 27 年 12 月 8 日をもって設立 50 周年を迎えます。現在、特別委員会を設置し、記念誌編集及び記念式典の実施に向け鋭意準備を進めております。

当協会が 50 年の歴史を綴ってきたことを内外にアピールするため、下記のとおり期間限定でロゴマークを使用することとなりました。

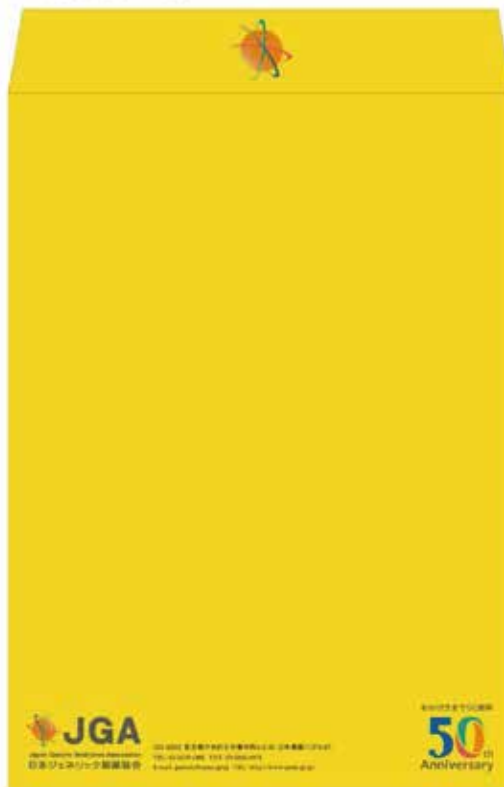
使用アイテムは、協会発信の封書(角 2 封筒、長 3 封筒)、名刺、HP 等の他、必要に応じて各発出文書に掲載することとしております。

おかげさまで 50 周年



- 「5」は、誠実・信頼のブルー
- 「0」は、健康・活力のオレンジ
- バランス・調和のグリーン
- 活動力・積極性のレッド

■封筒(角形2号)

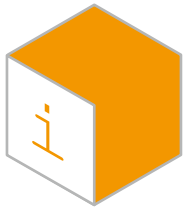


■名刺



■封筒(洋形8号)



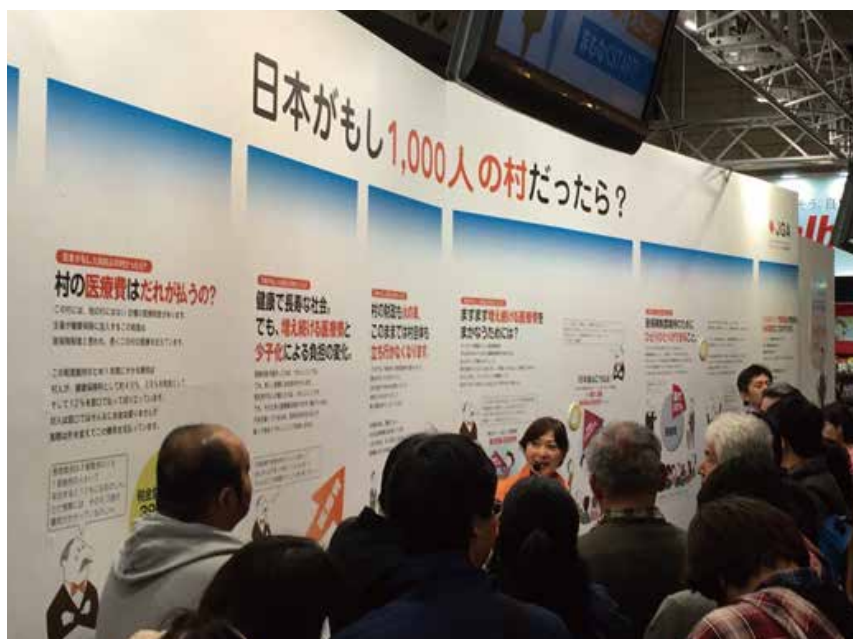


3月のイベント参加報告 第15回 JAPAN ドラッグストアショーに出展(3/13～15)

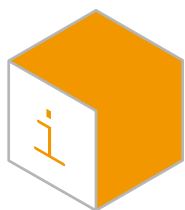
3月13日(金)～15日(日)、第15回 JAPAN ドラッグストアショーが幕張メッセで開催されました。3日間で約13万人を超える来場者があり、国内では最大級のイベントとなっています。当協会では今回もジェネリック医薬品(GE)の一般向け啓発のため、ブースを出展させていただきました。当協会のブースでは「日本がもし1,000人の村だったら」のコンセプトを用いて、皆保険制度を維持することの大事さとGEの使用意義を訴えました。またブース内に「ジェネリック相談コーナー」を併設し、様々なGEに関する相談に対応させていただきました。相談コーナーでは既に使用しているという方が多くなってきている反面、薬局で勧められているが、GEに関する基本的なことがわからないため替えられないでいる方、病院や薬局の方針でGEを調剤してもらえない方なども多くいらっしゃり、GEを使用促進する上で、まだまだ様々な課題があることを実感しました。

大会期間中の対応は下記のとおりで盛況のうちに終了いたしました。

- ・「日本がもし1,000人の村だったら」冊子配布：5,775部
- ・ステージ参加者：636名
- ・クイズ&アンケート参加者：2,585名
- ・相談コーナー対応者：130名



今回も相談コーナーにご協力いただきました「くすり相談委員会」の皆様、誠に有難うございました。

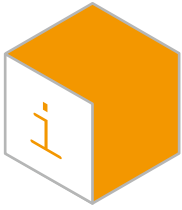


3月のイベント参加報告 日本薬学会第135年会(3/26～28)

平成27年3月26日(木)～28日(土)の3日間、神戸において「薬学が拓く、健康と未来」をテーマに日本薬学会第135会年會が開催されました。日本薬学会には、薬系大学や、薬学を専攻する工学系、理学系の大学の教員や学生を中心に、病院や薬局の医療現場で活躍する若手の薬剤師、更には製薬企業など幅広く参加されました。

当協会の展示ブースにも多くの先生や学生の方が訪れ、ジェネリック医薬品に関する様々な質問がなされていました。特に実習で調剤現場を経験した、或いはこれから実習が予定されている学生からの積極的な質問が印象的でした。

展示ブースでの対応者は3日間で約300人が来場され、盛会のうちに終了致しました。



4月のイベント参加予定 日本医学会総会学術展示及び学術講演(4/10～13)

第29回日本医学会総会2015関西は、「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」をメインテーマに、未来医XPO、学術展示、学術講演及び医学史展に分れ、それぞれのテーマに沿った企画が実施・予定されています。未来医XPOは3月号のJGAニュースで既にお伝えしておりますとおり、100㎡の敷地にステージを設置し、「国民皆保険制度の維持とジェネリック医薬品について考える」をテーマに一般の来場者に向けた啓発を行っております。

さて、今回ご案内するのは学術展示並びに学術講演です。

学術展示では、ブースを出展しジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、情報提供システムのご紹介などを中心に行うこととしております。学術講演では、緒方宏泰先生(明治薬科大学名誉教授)による「ジェネリック医薬品～改めて、先発医薬品に対する臨床上的有効性・安全性の同等性を考える～」のセミナーを予定しております。併せて、ブースも出展し、情報提供システムの普及啓発のほか、協会としての品質・安全性・安定供給などへの取り組み等説明することとしております。

日本医学会総会学術展示

会期：平成27年4月10日(金)～12日(日)

会場：京都市勧業館「みやこめっせ」

日本医学会総会学術講演

会期：平成27年4月11日(土)～13日(月)

会場：国立京都国際会館

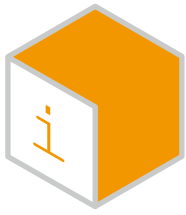
セミナー実施概要

日時：平成27年4月12日(日)12:45～13:35

会場：国立京都国際会館第7会場(Room B-1)

座長：武藤正樹先生(国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野)

演者：緒方宏泰先生(明治薬科大学名誉教授)



正会員の入会について

下記のとおり入会（正会員）が承認されましたのでお知らせいたします。

社名：あすか Actavis 製薬(株)

所在地：東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 41F

代表者：取締役社長 福井雄一郎



今さら聞けないGE豆知識

準先発品とは

平成24年の診療報酬改定で「一般名処方加算」が新設されました。一般名処方加算は処方箋の交付一回につき「後発医薬品のある先発医薬品について、一般名による記載を1品目でも含む処方箋を交付した場合」に2点を加算できるとされています。

この加算の要件である「先発医薬品」とは昭和42年以降に新薬として承認・薬価収載されたものが基本ですが、昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち、価格差のある後発医薬品があるものについては、「先発医薬品に準じたもの」とみなし「準先発品」としてこれらについても一般名処方加算を算定できることとなっています(内用薬及び外用薬に限る)。

(平成24年6月7日付厚生労働省保険局医療課事務連絡「疑義解釈資料の送付について(その5)」参照)

なお、後発医薬品調剤体制加算の算定の際には準先発品は分母には入らないので注意が必要です。

先発医薬品、準先発品、後発医薬品等の区分に関しては厚生労働省ホームページ「使用薬剤の薬価(薬価基準)に収載されている医薬品について」において最新情報が確認出来ます。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2014/03/tp0305-01.html>

参考事例

散剤には価格差があるため、準先発品となりますが、錠剤には価格差がないため、準先発品と扱われない例です。

成分名	規格単位	品名	会社名	薬価	分類
デキストロ メトルファン 臭化水素 酸塩水和物	10%1g	シーサール 散10%	東和薬品	9.10	後発品
		メジコン散 10%	塩野義製薬	24.90	準先発品
		デキストロ メトルファン 臭化水素 酸塩散10% 「日医工」	日医工	9.10	後発品
		アストマリ 細粒10%	鶴原製薬	9.10	後発品
	15mg 1錠	メジコン錠 15mg	塩野義製薬	5.60	—
		シーサール 錠15mg	東和薬品	5.60	後発品
		デキストロ メトルファン 臭化水素 酸塩錠15 mg「NP」	ニプロ	5.60	後発品
		アストマリ 錠15mg	鶴原製薬	5.60	後発品

Q

A

公正競争規約Q&A

卸業者経由の製剤見本配布方法について

Q

〇〇製薬は新製品Aを発売しました。医療担当者に速やかに情報提供を行うために、製剤見本の配布に卸売業者の協力を仰ぐことにしました。配布依頼先リストを作成し、そのリストと共に依頼軒数分の製剤見本のみ卸売業者に渡し、協力依頼をしてよいでしょうか。

A

『認められません。』

医療機関や薬局の医療担当者への迅速な情報提供を行うため、卸売業者の協力を仰ぐ場合は、提供先医療機関等を指定し、製剤見本が医療担当者に確実に渡される方法を取ることが必要です。

単に配布依頼先リストを付けただけで製剤見本の配布を卸売業者に依頼する方法は認められていません。まして、製剤見本がダンボールに入れられ、卸売業者の営業所に放置されているようなことがあってはなりません。

製剤見本が確実に医療担当者に渡されるために、製剤見本をたとえば製品情報概要等の情報とセットにした、いわゆる袋詰めにし、医療機関等を明記するなどの手段を採り、個々の製剤見本が指定された医療機関等の医療担当者に確実に渡される方法を工夫してください。

なお、製剤見本といえども医療用医薬品であり、その提供は必ず情報を伴わなければならない、医薬情報担当者が直接提供することが原則です。



活動案内

<日誌>

3月 3日	総務委員会広報部会イベント講演グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月 5日	総務委員会広報部会 JGA ニュース編集会議	〃
3月10日	総務委員会総務部会	〃
3月10日	MR 教育研修検討チーム	〃
3月10日	後発医薬品添付文書検討ワーキングチーム	東京八重洲ホール会議室
3月11日	総務委員会広報部会広告掲載グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月13日	くすり相談委員会	〃
3月16日	知的財産研究委員会	東京八重洲ホール会議室
3月18日	常任理事会、理事会	〃
3月18日	臨時総会	〃
3月19日	薬事関連連絡会	〃
3月19日	信頼性向上常任委員会	〃
3月24日	総務委員会広報部会原稿作成グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月24日	総務委員会広報部会グループリーダー会	〃
3月25日	安全性委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月26日	MR 教育研修検討チーム	〃
3月27日	薬価委員会幹事会	メルパルク大阪会議室
3月27日	薬価委員会	〃
3月31日	薬制委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月31日	薬制委員会	ベルサール八重洲会議室
3月31日	製剤研究会	〃

<今月の予定>

4月 1日	薬価委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月 7日	総務委員会総務部会	〃
4月 8日	薬価委員会幹事会	東京八重洲ホール会議室
4月 9日	薬価委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月14日	文献調査検討会	〃
4月14日	総務委員会広報部会原稿作成グループ会議	東京薬事協会会議室
4月16日	常任理事会、理事会	新大阪ワシントンホテルプラザ会議室
4月16日	品質委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月16日	品質委員会	東京八重洲ホール会議室
4月20日	倫理委員会実務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月21日	総務委員会広報部会グループリーダー会	〃
4月21日	薬事関連連絡会	東京八重洲ホール会議室
4月21日	信頼性向上常任委員会	〃
4月22日	安全性委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月22日	薬制委員会幹事会	東京八重洲ホール会議室
4月22日	流通適正化委員会	〃
4月22日	知的財産研究委員会	〃
4月22日	総務委員会広報部会広告掲載グループ会議	東京薬事協会会議室
4月24日	薬価委員会幹事会	ビジョンセンター東京会議室
4月24日	薬価委員会	〃



編集後記

サラリーマンをしていると自分の思い通りの時間はあまり作れない。それでも少し工夫したり、ちょっとした気の持ちよう、まあまあな時間は作れるのだと思う。

実は子供の頃に好きだった自転車の楽しみが甦り、いわゆるハマった状態になって5年になる。自転車は、誰でも何歳からでも気軽にのれる乗り物なのに、徒歩や車で移動する世界とは違って、景色や時の流れをまったりと全身で感じられるところが素晴らしい。上手く伝えられないが、気軽にまったりというのは、若い頃感じていたような感覚がある。とにかく時間の感じ方、使い方が変わった気がする。若い頃の感覚で、自転車を買って2週間後に150kmのライドをした。平均時速20km強で7時間ペダルを回せばOKという感覚だったが、身体が鈍っていたにも拘らず急に無茶をしすぎたようで、右膝の十字靭帯に炎症を起こした。安全運転ポイントのように、なんでも「急」がつくのはいけない。自転車のエンジンは自分自身ですから、すごく反省している。現在は、ローラー台を使ったトレーニングや、普通なら車で移動する様な距離(半径50km圏)の日常の買い物を、背負える限り自転車で移動して身体を造る様にしている。この程度のライドなら、到着時間は自動車とそんなに変わらない。むしろ、達成感と満足感は大違い、まあまあな時間が感じられる。

もうすぐゴールデンウィークだ。これまで信濃、甲斐、出羽の国へ輪行してきたが、今年は北陸新幹線開業で越中・加賀・越前が射程距離に入ってくれた。今はメンテナンスの知識を広げて、クロモリロードをカスタマイズしている。

同じ頃、ジェネリック医薬品の使用推進に関する議論が始まるだろう。現行制度導入時のような急な変化への対応はとにかく大変であったが、数量シェア目標60%は前倒しで達成される勢いだ。そして、我々も良い点・悪い点を色々勉強させられた。大きな成果が現れたのは良いことと思うが、今回の議論は現状に即したカスタマイズをして、もう少しまったりと進めてもらおうと、まあまあな良さが感じられるのだろう。

(G 谷)

■ 編 集

日本ジェネリック製薬協会
総務委員会広報部会

■ 発 行

日本ジェネリック製薬協会
〒103-0023 東京都中央区 日本橋本町 3-3-4 日本橋本町ビル 7F
TEL: 03-3279-1890 / FAX: 03-3241-2978
URL: www.jga.gr.jp